

「会員短信 44」

「袋屋おひさ」

久松久子

男女共に、何故か八十を超えると歳を言いたがるようになります。私も米寿になり、聞かれてもいないのに自分から「私八十八になりました」と言っています。心のどこかで自慢しているのです。

しかし、足も弱り膝も悪くて思うように歩けません。手も、三年前に玄関のベルに対応しようと慌てて、敷居に躓き右肩を骨折しました。四時間半の手術で骨を繋いでいただきましたが、腕は肩の高さまでしか上がりません。十日余りの入院では、元々悪い足の筋肉がさらに減ってしまいました。

俳人としては字が書けないのは辛いので、必死に練習をしています。また、リハビリのつもりで以前のように好きな縫物をして、カバンや財布、ペンケースなどを作っています。いろいろな袋物を皆さんにプレゼントしては、「袋屋おひさ」と呼ばれています。字がこむら返りしながらも何とか書けるようになったのは、俳句と裁縫のお陰です。怪我をしましたが、このショックで脳が活性化されることを期待しています。

今は、デイサービスを利用する日々ですが、車で迎えに来ていただけるので、出かけて行ってはヨガ体操にも励んでいます。まだまだ頭も体もしっかり動かして、八木先生のように日常に転がっている滑稽をしっかり捕まえたいと思います。

春泥に杖高跳びの着地かな

運動は口元ばかり春炬燵

選挙戦地盤看板春一番